

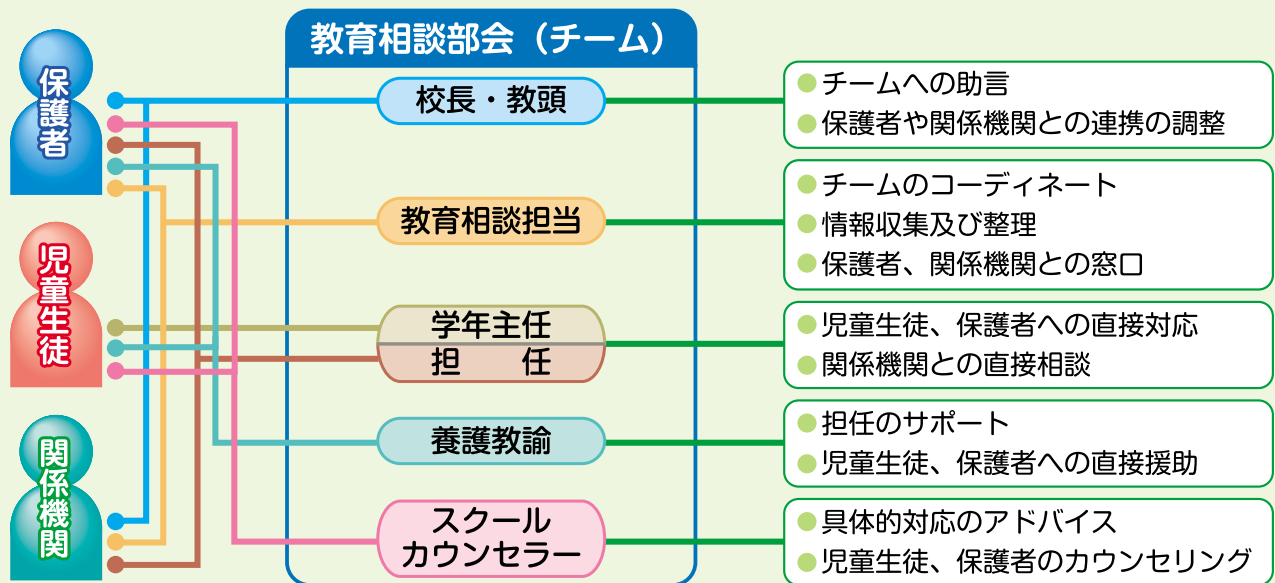
3 小・中学校の支援体制づくり

チームで対応を！

小学校においては、不登校や問題行動への対応を担任一人でがんばるケースが多くみられます。そのため、十分な情報が収集できなかつたり、児童生徒や保護者との関係がうまくつくれず、事態が深刻化することもあります。また、自責の念にかられて、担任自身が疲れてしまう例もあります。

中学校においては、担任が生徒と接する時間が限られるため、様子の変化に気づきにくかつたり、小学校との連携が希薄だったために情報が共有されていなかつたりする例があります。

チーム体制の例



チーム体制のポイント

チーム対応の内容について、定期的に全教職員で共通理解すること。

構成メンバーは、学校の実態に応じて編成し、多すぎないこと。

個人の責任追及、批判はしないこと。

担任以外の者がコーディネーターになり、メンバーの役割を明確にすること。

チーム対応のポイント

ステップ1 → チームで支援会議を開き、いつ、だれが、何を、いつまで支援するかを協議し、対応を始める。

ステップ2 → 基本的には担任が家庭訪問を行い、家庭での様子や本人の気持ちを聞く。
本人と会えない場合は、無理に会おうとせず家族とのよりよい関係づくりに努める。

ステップ3 → 短いサイクルで、情報の整理や支援の評価、次の支援内容等について確認する。

ステップ4 → 必要に応じて関係機関等との連携を図る。

ステップ5 → メンバー間の円滑な人間関係を築く。